



ユツユツ とこどん

大仙市立太田中学校
令和3年5月13日
NO. 18



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

郡市陸上競技大会に向けて

5月18日(火)、19日(水)、県営陸上競技場で行われる郡市陸上競技大会の練習の真っ只中です。本校は、吉澤監督の下、31名の選手団で大会に臨みます。今日は抽選会でした。ねらうは●●!



郡内には強豪が数多く、その相手と競うわけですが、練習期間は短く、陸上競技を専門としていない生徒がほとんどですが、それでも、我が選手団には強豪太田中の名を背負い、**まず自分の記録、昨日までの自分を超えることを目指して**、精一杯がんばってきてほしいと願っています。



競技に臨むに当たっては、競技場での過ごし方や態度もこのコロナ禍での大切な要素です。



「記録のいい選手だけが優れた選手ではない。誰からも応援されるような選手こそが優れている選手なのだ」という陸上競技の名言の通り、競技場では太中生なら大丈夫という態度と行動を示してくれるものと期待しているところですよ。

また、郡市陸上競技大会での躍動の姿は、選手一人一人、太中選手団の力に加え、それを支える仲間の応援も大きな力になると思っています。

陸上練習の陰で、選手の練習同様に応援団の練習にも熱が入っています。応援はきっと、選手の大きな力になることでしょう。『**仲間を励まし、認め合う太中の応援**』は今年度のテーマの一つです



私の前任校は応援が自慢の学校でした。郡市陸上競技大会にも出場しない全員が応援という形で参加し、仲間を心から応援していました。その応援を始めた、元校長でペアーレ大仙のセンター長の毛利博信先生に講演をお願いしたことがありました。

「応援は必ず力に」をキャッチフレーズにした応援活動の始まりや「**応援は人を動かす力になる、応援する方もうれしい、工夫次第でさりげない応援ができる**」など応援への熱い思い、「いつでも仲間を心から応援し、仲間から応援される人になってほしい」という中学生への期待と「**応援し合う学校、応援し合う地域に**」という願いを伺い、学校づくりの根幹を再確認した経験を思い出しています。

選手+応援団+職員+保護者の皆様+地域の皆様＝「**チーム太中**」で、心一つに大会に臨みたいと考えております。応援よろしく願いいたします。